

歩行移動時の高揚感に影響を及ぼす経路の物理的要因

—動物園のランドスケープイマージョンにおける経路デザインに関する考察—

片山めぐみ・柿山浩一郎・張浦華

(日本建築学会北海道支部研究報告集, No. 82, p. 389-394, 2009.7)

昨今、国内外の動物園では、野生動物の生息環境に迷いこんだかのような、動物に出会うまでの期待感や高揚感を高める経路のデザインが見られるようになった。本研究では、経路のどのような物理的要因が歩行時の観覧者の高揚感に影響を及ぼすのか実験によって検証し、以下の結果を得た。

- (1) 「岩や曲折などによる前方の遮蔽」、「照明による視界の暗さ」、「光」、「岩・樹木などの象徴的な物体」が、高揚感の上昇に影響する主な要因であった。
- (2) 高揚感の下降に影響する要因は、「期待に対して何も発見が無い状況」、「広がりのある空間」と、看板などの「違和感のある人工物」であった。
- (3) 視界を遮蔽したり暗くすることで先の空間に期待を抱かせ、その後、何か発見や驚きがあることが高揚感の連続的な上昇に繋がる。したがって、展示空間までの経路をデザインする際には、行く手を遮る要素（カーブや暗闇）などによって十分に期待を持たせ、その先に発見や驚きを与える要素（印象的な形態の樹木や岩、滝、光など）の設置をひとつのループとして一定距離の経路上にいくつか配置していくことが効果的であると考えられる。